

パネルディスカッション2

「－治療適応；内科・外科の立場から－難治性胃十二指腸潰瘍」

司会 沖本 忠義（大分大学医学部消化器内科）

加藤 広行（桐生厚生総合病院）

H. pylori 除菌治療が保険適用となり 20 年以上が経過し、*H. pylori* 関連胃・十二指腸潰瘍は減少している。また、PPI や P-CAB などの消化性潰瘍治療薬の登場によって、一般診療における潰瘍治療に困る症例は減ってきていると思われる。しかし、NSAIDs を代表とする薬剤性潰瘍や残胃、*H. pylori* 未感染・除菌後に生じる潰瘍のなかには再発を繰り返し、治療に難渋する症例もみられる。本パネルディスカッションでは、難治性胃十二指腸潰瘍に対する治療戦略について内科と外科の立場から検討したい。